

下 水 道 事 業

区 分	令和6年度	令和5年度		算 出 方 法
		久留米市	全国平均	
長期的健全性				
1 固定資産構成比率(%)	96.3	95.3	96.5	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
2 固定負債構成比率(%)	49.9	50.2	29.3	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
3 自己資本構成比率(%)	45.7	44.9	66.2	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
4 固定資産対 長期資本比率(%)	100.7	100.2	101.0	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
5 固定比率(%)	210.8	212.2	145.7	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
短期的支払能力				
6 流動比率(%)	84.0	95.5	78.2	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
7 当座比率(%)	69.8	84.5	70.8	$\frac{\text{現金預金}+(\text{未収金}-\text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
8 現金比率(%)	46.8	36.4	56.3	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
資産・資本の有効利用等				
9 自己資本回転率(回)	0.1	0.1	0.1	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首資本}+\text{期末資本}) \div 2}$
10 固定資産回転率(回)	0.0	0.0	0.0	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産}+\text{期末固定資産}) \div 2}$
11 当年度減価償却率(%)	3.2	3.2	4.0	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{固定資産(有形}+\text{無形)}-\text{土地}-\text{建設仮勘定}+\text{当年度減価償却費}} \times 100$
利益率・収益性				
12 総資本利益率(%)	0.4	0.6	0.3	$\frac{\text{当年度経常利益}}{(\text{期首総資本}+\text{期末総資本}) \div 2} \times 100$
13 総収支比率(%)	107.6	111.3	105.1	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
14 経常収支比率(%)	107.6	111.7	105.1	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
15 営業収支比率(%)	78.3	79.8	64.6	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$

経営分析表

区 分	令和6年度	令 和 5 年 度		算 出 方 法
		久留米市	全国平均	
企業債関連				
16 利子負担率(%)	1.1	1.1	1.2	$\frac{\text{支払利息}+\text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債}+\text{一時借入金}} \times 100$
17 企業債償還元金対減価償却額比率(%)	172.3	176.7	133.3	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費}-\text{長期前受金戻入}} \times 100$
18 企業債償還元金対料金収入比率(%)	72.7	72.9	98.3	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
19 企業債利息対料金収入比率(%)	18.3	18.2	—	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
20 企業債元利償還金対料金収入比率(%)	90.9	91.0	—	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
21 企業債残高対事業規模比率(%)	1,048.9	1,191.1	593.3	$\frac{\text{企業債現在高}-\text{一般会計負担額}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}-\text{雨水処理負担金}} \times 100$
職員関連				
22 職員給与と費対料金収入比率(%)	5.9	6.1	9.8	$\frac{\text{職員給与と費}}{\text{料金収入(下水道収益)}} \times 100$
23 職員一人当たり営業収益(千円)	183,556	174,396	117,629	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
24 職員一人当たり有形固定資産(千円)	2,593,912	2,624,488	2,025,476	$\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数}+\text{資本勘定所属職員数}}$

(備 考)

- 1 総資本は、負債と資本との合計額を用いて算出している。
- 2 No.22の職員給与費対料金収入比率の算出要素である職員給与費は、損益勘定所属職員に係る給与費を用いている。
- 3 全国平均欄の数値は「地方公営企業年鑑」(総務省)の「第2編 第3章 7.下水道事業 11 下水道事業の経営状況」の数値を用いている。ただし、No.19とNo.20の全国平均の指標については、企業債に関して公表されていない項目もあるため「—」表示としている。
- 4 上記表中、令和5年度 久留米市のNo.23は、前年度意見書の数値が誤っていたため、正当な数値に改めている。